

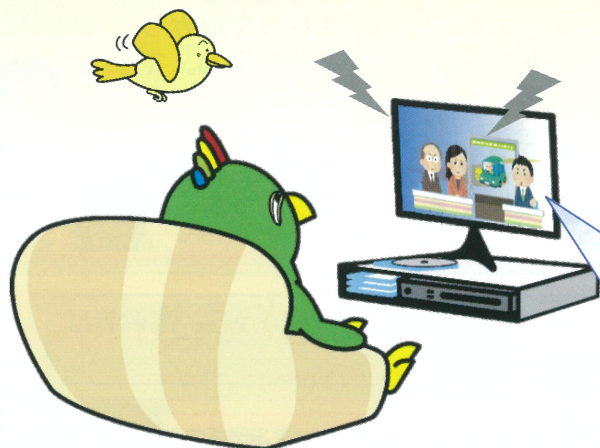


公益社団法人 鳥取県人権文化センター

考えてみよう
超高齢社会
の人権尊重

あなたは思う？

高齢者の車の運転問題



相次ぐ！高齢者による交通事故！！

する

免許返納

しない

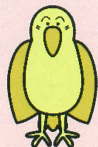


鳥取県内の運転免許の自主返納は過去最多

昨年1年間に鳥取県内で運転免許証を自主的に返納した65歳以上のドライバーは2,559人だ。前の年より500人くらい増えて、自主返納の制度が始まった平成10年以降、最も多くなったそうだよ。75歳以上の人が1,821人で、71%を占めているんだって。



ふらっちょー



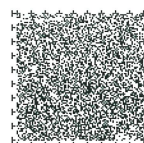
とり助

高齢ドライバーによる悲惨な事故が大きく報道されたことが影響したのかもしれないね。
運転免許証の自主返納については、色々な意見があるよね。

(参考：NHK NEWS WEB 鳥取NEWS WEB 2020年7月15日配信記事
「免許の自主返納が過去最多」)

Uni-Voice

文字情報を音声で読み上げるための「音声コード」です。お持ちのスマートフォンに、音声コードリーダーアプリ「Uni-Voice」(iOS/Android版)、又は「Uni-Voice Blind」(iOS版のみ)をインストールしてご利用ください。





65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合を高齢化率といいます。高齢化率が7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」、そして21%を超えると「超高齢社会」といいます。日本の高齢化率は28.4%（令和元年10月1日現在）で、世界で最も高齢化率の高い国となっています。

（参考：厚生労働省『令和2年版高齢社会白書』）

高齢者の車の運転や運転免許の返納について、どんな意見があるかな？
以下の意見や生活実態を参考に、他にもどんなことがあるか考えてみよう。



事故を起こして人に迷惑をかけるわけにはいかない。だから私は免許を返納するよ！

試験をパスしさえすればいいんじゃないかい？若い人だって危険な運転をしている人はたくさんいるじゃないか。

子どもにもしものことがあったらどうしてくれるんだ！一定の年齢になったら免許は返納すべきだ！



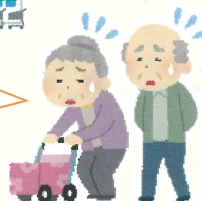
母さんの運転、心配だな。免許返納を勧めるべきか。でも運転できなくなると畑に行けなくなる。畑仕事は母さんの生きがいだしなあ。



おじいちゃんには子どもの塾の送り迎えをしてもらって助かってるのよね。でも万が一ってこともあるし。でも私も仕事があるしなあ...



車の運転ができないと買い物や病院に行くのに困るよ。バスの本数も少ないし、近所の人に頼むわけにもいかないし...



「大切な家族の命を守りたい」「人に迷惑をかけてはいけない」という思いから、高齢者は免許を返納すべきという意見もあるね。

でも、人によって身体能力や健康状態、家族構成や生活スタイル、住んでいる地域の状況等は異なるから、「暮らし」を守るためには、免許返納というわけにはいかないといったケースも多いよね。



年齢だけを「ものさし」にしてしまうと、差別や人権侵害につながりかねないということをしっかり考えないといけないね。

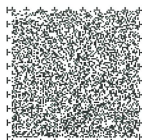
高齢者一人ひとりにとっては、日常生活を送る上で当たり前に行われてきたことができなくなってしまうことや適切なケアを受けられないこと、また、生きがいを喪失してしまうことや交通インフラ等社会資本が整備されないこと等も人権の問題として捉えられるでしょう。これらは、高齢者の「生存権」等を脅かすような日々の生きづらさとして立ち現れてきます。

車の運転問題一つとっても、年齢だけを基準に安易に答えを導き出そうとするのではなく、現実の状況を引き合いに出しながら、様々な視点と考察を加え、社会全体を見渡すことで、人権について深く考えることが大切です。

「超高齢社会の人権尊重」を考える学習教材

Future!

今回取り上げた「高齢者の車の運転問題」の他、「超高齢社会」に暮らす私たちがぜひ考えておきたい事柄を取り上げた学習教材です。必要なページをコピーして人権研修のワークシートや配布資料としてお使いいただけます。





人権ライブラリー 本・DVDのご紹介 ふらっと交流スペース 展示のご案内



今回は“ふらっと”の所蔵本・DVDの中から『障がい』をテーマにした作品の一部をご紹介します。また、10月～12月の展示のご案内をします。

絵本

『みえるとかみえないとか』 作：ヨシタケシンスケ 相談：伊藤亜紗／アリス館



ヨシタケシンスケさんが、『目の見えない人は世界をどう見ているのか』の著者である伊藤亜紗さんに相談しながら描いた絵本です。

「おなじところを さがしながら ちがうところを おたがいにおもしろがればいいんだね」。面白がるということの奥深さとむずかしさを感じながらも「ちがいをかんがえること」への関心の広がりユーモアたっぷりに表現された作品です。

単行本

『バリアバリュー 障害を価値に変える』 著者：垣内俊哉／新潮社



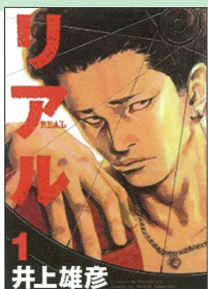
障がいは人ではなく、環境にある——この小さな気づきが、車イスに乗った青年に4000万人市場をもたらした。偏差値33から一念発起、大学進学、起業時代の極貧生活を経て、ユニバーサルデザインを牽引するベンチャー経営者へ。その劇的な半生と、斬新なビジネスモデルを生んだ独自の「反転戦略」を明かす。

著者が掲げるバリアバリューという理念は、障がいを克服するにとどまらず、障がいを強みに変え、価値に変えていくことが大切だと伝えています。

コミック

『リアル』（1～14巻）

作：井上雄彦／集英社



バスケットボール漫画の金字塔！『SLAM DUNK』の作者が、車いすバスケットを題材に描いた作品。

『淋しいのはアンタだけじゃない』（全3巻）

作：吉本浩二／小学館



作者の地道な取材をもとに、耳の不自由な人のリアルな「聞こえ方」を表現した作品。

DVD

『知りたいあなたのこと』

外見からはわからない障害・病気を抱える人

〈2019年作品〉〈上映時間 21分〉字幕あり・多言語対応版



外見からはわからない障がいや病気を抱える人の話を通じて、私たちにできる配慮は何かを考えます。

展 示

【10月】琴の浦高等特別支援学校生徒作品展

【11月】鳥取聾学校写真部生徒作品展

【12月】白兔養護学校小・中学部生徒美術作品展

貸出数 ・ 貸出期間	本		DVD	
	個人	10冊 2週間	2本	2週間
	団体	50冊 4週間		

鳥 取 県 立
人権ひろば21
ふ ら っ と

■開館時間 9時～17時（年末年始・祝日は休館）
■電 話 0857-27-2010
■ファクシミリ 0857-21-1714
■電子メール furatto@tottori-jinken.org



人権に関する相談

センターでは、人権に関する問題を一緒に考える相談窓口を設置しています。

■人権相談日 毎週水・土・日（年末年始・祝日を除く）
9時～17時（当日相談の受付は16時まで）

■相談専用電話 0857-21-1713

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、面接による人権相談は30分以内とさせていただきます。できるだけ、電話、ファクシミリ、メールでご連絡、ご相談ください。

おしらせ

令和3年
3月31日
まで

本・DVDの無料宅配サービスをご利用ください

ふらっとでは、本やDVDの無料宅配サービス（貸出も返却も）を実施しています。

■予約、貸出

電話、ファクシミリ、メールのいずれかで予約してください。返却用の送り状と共に宅配便でお届けします。

*ふらっとホームページから本やDVDの検索ができます。

■返却

同封の送り状（ゆうパック）に必要事項を記入し、郵便局またはローソンから返却してください。

センターの情報はここでチェック！ホームページのご案内

■人権研修のお役立ち情報

- 講師派遣のご案内
- 当センター作成の各種啓発資料

■読み物もあります

- メルマガバックナンバー
- 調査研究の進捗状況

その他、事業紹介や最新情報など、ぜひご覧ください！



公益社団法人鳥取県人権文化センター

〒680-0846 鳥取県鳥取市扇町21番地 鳥取県立人権ひろば21ふらっと内
【TEL】0857-21-1712 【人権相談専用TEL】0857-21-1713
【FAX】0857-21-1714 【E-mail】t-jinken@tottori-jinken.org
【H P】https://tottori-jinken.org

